

森林の最果て

文と写真◎北川 涼 Kitagawa Ryo

関西支所



森林-ツンドラ移行帯の景色。

北方の針葉樹林は、北に向かうにつれ徐々に樹高が低くまばらになり、やがて矮性低木や草本が繁茂するツンドラに変わっていきませんが、こうした場所をツンドラ移行帯といえます。カナダ・ケベック州のハドソン湾岸では、北緯55度付近にこの移行帯があります。ヨーロッパやアジアでは、まだ立派な森林が生育する緯度ですが、ハドソン湾の入り口が北にあるため湾内の水が常に冷たく、湾岸の森林の発達が制限されるようです。

ツンドラ移行帯では、風の影響が少ない窪地や水分や土壌の条件が良い川の周囲にカナダトウヒの森林が成立します。そして、森林以外では、ガンコウランやコケモモなどのツツジ科の矮性低木が地面にへばりつくように生えています。

ガンコウランやコケモモは日本の高山でもなじみの植物です。その昔もつと寒かった時代にツンドラの植物が南に分布を拡大しました。その後、再び暖かくなった時に森林が北上し、ツンドラの植物も北に戻っていきます。その途中で、いまは北極圏にいる植物の一部が日本の高山に取り残され、遠く離れた日本でも北極圏と同じような植物がみられるようになったと考えられています。

このような植生の移行帯は、気候変動による影響がもつとも顕著に観察できる場所です。温暖化に伴い、今後はさらに森林が北上するかもしれません。いままでツンドラ移行帯だったところが森林になると、生態系の変化だけでなく、地域の文化も産業もすっかり変わってしまうでしょう。こんな環境の境目に暮らす人々の生活は、これからのどのように変わっていくのでしょうか？ ♣

河川沿いのカナダトウヒの森林、地表部は地衣類に覆われている。



ガンコウランに囲まれるイチゴの仲間。

